



INGING MOTORSPORT.



INGING MOTORSPORT OFFICIAL WEBSITE OF PAPER [<http://www.inging.co.jp>]

INGING NEWS PAPER 2013 VOL.03

TAKE FREE 無料

The weather is becoming cloudy and after fog and a course situation are semi wet.
<http://www.inging.co.jp>

Race Report
Round.2 AUTOPOLIS 6/2 Final
2013年6月2日 オートポリス 天候:曇りのち霧 | コース状況:セミウェット

Draw a good flow near!

悪い流れを断ち切り栄光を掴み取れ!



INGING NEWS PAPER
SUPER FORMULA Round.2 AUTOPOLIS 6/2 Final

Round.3 FUJI SPEEDWAY 7/13 - 7/14

Support by cyber net

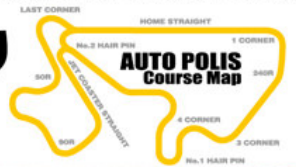
INGING NEWS PAPER VOL.03 [インギング ニュースペーパー]

2013年7月発行 価格3号

発行:株式会社サイバーネット 日本編集局
〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1-12-5 難波駅前ビル2F

Draw a good flow near!

悪い流れを断ち切り 栄光を掴み取れ!



Round 02 Photo Collection



#38 KOHEI HIRATE / #39 YUJI KUNIMOTO with MIU YAMAGUCHI

The weather is becoming cloudy and alter fog and a course situation are semi wet.

Race Report Round.2 AUTOPOLIS 6/2 Final

2013年6月2日 オートポリス 天候:曇りのち霧 | コース状況:セミウェット

〈決勝 Race 45周〉

最終的には雲は残っているものの、予選時に降っていた雨はやみ、さらに2時間の決勝レースが行われたことで、スーパーフォーミュラ2階級の決勝レースが始まるころにはコース上の水も少なくなっていた。スリックタイヤを装着してスタート直ぐグリッドに向かった平手は、グリッドでウェットタイヤに交換、国本もウェットタイヤを装着して決勝レースに臨んだ。14時45分、決勝レースがスタート。開幕戦同様に乗換らしいスタートを切った平手は、オープニングラップで2台をかわし6番手浮上。国本もレッドシグナルの消灯とともにタイミングの合った動き出しを見せたが、1コーナーに向かうまでにポジションを上げるためのスペースがなく、1つ順位を下げる形になってしまった。ウェットタイヤでスタートしたものの、これはあくまで緊急コンディションは向上し、両車の中にはスリックタイヤでスタートした者はいないがそのタイムは急激に上がっていた。そのためウェットタイヤを装着していたチームは徐々にマシンをベイトに戻しタイヤ交換を行っていく。PMU/CERUMO/INGINGの2台も、まずは平手をベイトに置きタイヤ交換と給油を行ったが、ここで作業機関にトラブルが発生し、作業時間を大幅にロスすることになってしまった。予定よりも長いベイト作業時間になってしまった平手は、全車がベイト作業を済ませた時点で13番手と大きく順位を後退。さらに、11周目には多重接触アクシデントに巻き込まれマシンにダメージを負うことになった。ふたたび

がタイヤを交換してコースに戻ったものの、受けたダメージは大きく、平手は再度ベイトイン。マシンの修復作業に時間を費やし、リタイアとなった。いっぽう、平手と同じくスリックタイヤに交換した国本は最後尾からの追い上げを図っていたが、レース序盤から、パイザーが奪ってしまうというアクシデントに見舞われていた。後序不慮でコースにとどまることさえも難しい中、国本は必死のドライビングを続ける。激突コンディションは向上したとは言え、まだ所々は濡れている状態。平手が巻き込まれてしまった乗換アクシデントの他にも、いたるところでコースアウトするマシンが出てくる中、タイムにバラつきはありながらも国本はコース上にとどまり続け10位までポジションを上げた。レース終盤には最終セクター方向から強い雨が降り、コースの半分は上が濡れに包まれ両車ともにトップのマシンが1周目に入ったところでレースは急遽中止。そのまま終了となり、国本は10位完走という結果となった。PMU/CERUMO/INGINGの2台は開幕戦に引き続く、マシンとドライバーのポテンシャルを確かめさせられなかった結果となってしまった。次戦の富士スピードウェイ開幕前のテストでも好調さを見せていたコースだけに、悪い流れを断ち切りたいところだ。

Round 02 Race Comment

'38 平手 晃平
Race Result: Retire
「ベイト作業に時間がかかって順位を下げてしまったことで、あの位置でアクシデントに巻き込まれてしまいました。この週末はチームで持ち込んだクルマのセッティングが良く、土曜日のフリー走行での走り始めから調子が良かったし、予選でも最速の8位でポテンシャルを感じていたので、レースを走り切ることもできたかもしれないが非常に残念です。開幕戦に接触結果を残らなかったことは嬉しいですが、クルマの調子に関して言えば、ペースの部分が大きく進歩しているのを感じているのでこのあたりのセキットでも好結果を期待できるはずですが、そのために、今後のレースではミスなく戦ってみたいと思います。」

'39 国本 雄資
Race Result: 10th
「動き出しは悪くなったのですが、前に詰まって行き場がなくなり、アクセルを戻さざるを得ない状態で順位を下げてしまいました。レースの序盤からパイザーが奪って前が見えず、自分がどこを走っているかわからない状態で走っていたので、「レースをした」という感触をあまり持てず、アラストレーションが貯まりました。クルマの感触も、土曜日に良かったものをそのまま進めていたはずなのですが、なぜか乗りかかった部分が影響を受けてくるようになり、ドライビング自体も非常に難しくなりました。次のレースが来るまでに、何が良かったのか、何が悪かったのかをしっかりと分析して、同じことが起きないようにしたいです。」

監督:立川 祐路
TEAM DIRECTOR
「開幕より、今回はワンデーレースのようなスケジュールになりました。38号車に関しては出だしから好調で、まずまずのグリッドも手に入れたことができたのですが、レース中にアクシデントに巻き込まれてしまいました。あれは避けられない状況だったので、上位で戦えるポテンシャルを見せていただけに非常に残念でした。39号車に関しては、クルマのセッティングとドライビングが噛み合わないまま予選と決勝が遠んでしまった形で、本来持っている力を出しきれずに終わってしまいました。2台とも満足する結果を出せることができますでしたが、次戦の高土はアストの調子も良かったので、ここで結果を出せるようにしっかりと準備をして臨みたいと思います。」

